

2011年度 建設マネジメント委員会

# 研究成果発表会及び表彰式

主催:土木学会 建設マネジメント委員会

日時:平成23年8月11日(木) 10:00~17:30

場所:土木学会講堂 新宿区四谷1丁目(外濠公園内)TEL 03-3355-3559

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内

(JR「四ツ谷」駅の四ツ谷口より徒歩3分、地下鉄南北線「四ツ谷」駅の3番出口より徒歩3分、地下鉄丸の内線「四ツ谷」駅より徒歩5分)( <http://www.jsce.or.jp/map/map.htm> にて地図を入手できます。)

参加費:無料

申込:下記のHPより「申込画面」へすすみ、お申し込み下さい

(<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp> ⇒ 行事コード:45100)

10:00~10:10

開会の挨拶 :建設マネジメント委員会 小澤一雅 委員長

## 【建設産業の国際展開支援の研究報告の部】

10:10~10:25

国際展開推進プロジェクト小委員会 活動報告

講演者

福本勝司 小委員長 (大林組)

10:25~10:40

国際連携プロジェクト小委員会 活動報告

講演者

渡邊法美 小委員長 (高知工科大学)

10:40~11:30

公共事業改革プロジェクト小委員会 活動報告

講演者

木下誠也 小委員長 (愛媛大学) 他

11:30~11:40

質疑

## 【表彰式】

11:45	開会
11:45~11:55	表彰発表
11:55~12:00	表彰状授与
12:00~12:20	論文賞受賞論文概要紹介
12:20~12:40	グッド・プラクティス賞概要紹介
12:40	閉会
12:40~13:30	昼休み

## 【研究小委員会の部】

13:30~13:45	<b>土壌汚染に対するPFI等のマネジメント手法導入の研究</b>
土壌汚染の発覚により土地の流動化ができない土地について、例えば PFI 等のマネジメント手法を導入した場合の効果等を研究し、有効な土地活用の方法や新事業創出の可能性等を提案する。	
環境修復事業マネジメント研究小委員会（第2種終了）	下池 季樹（国際環境ソリューションズ）

13:45~14:00	<b>ICTを活用した理想的な現場像の研究</b>
施工中の現場業務のうち、主に管理業務を各分類ごとに ICT による効率化の可能性と理想となる近未来像、及びそれに対する現状の問題点を研究した。 ・工程管理 ・品質管理 ・安全管理 ・労務・資機材管理	
現場マネジメント情報化研究小委員会（第2種終了）	原島 誠（飛島建設株式会社）

14:00~14:40	<b>東日本大震災の復旧・復興に向けた PFI/PPP の活用に関する提言</b>
インフラ事業への適切な PFI/PPP の適用を目的に調査研究を進めているインフラ PFI 研究小委員会において取りまとめた、東日本大震災の復旧・復興への PFI/PPP の活用に関する提言。	
インフラPFI研究小委員会（第1種継続）	宮本 和明（東京都市大学）

14:40~15:00	休 憩
-------------	-----

15:00~15:40	<b>技術公務員の「役割と責務」および「育成と評価」に関する研究</b>
①「技術公務員の役割と責務」研究小委員会成果の研究成果報告 ・目的・背景 ・研究方法・体制 ・中間報告の内容 ・最終報告の内容 ・出版 ②「技術公務員の育成と評価」研究小委員会の研究方針 ・目的・背景 ・研究方法・体制 ・成果イメージ	
技術公務員の育成と評価研究小委員会（第2種新規）	野口 好夫（名古屋市）

15:40~16:20

**地方都市における持続可能なまちづくりと地域マネジメント方法に関する実証的研究 —滋賀県湖南地方都市を対象とする農・工・商連携のまちづくりと都市活性化のための地域マネジメント—**

2009年度、2010年度と継続的に進めてきた地域マネジメント方法に関する実証的研究は、研究成果発表や研究成果報告において報告したように地元自治体草津市、湖南市、滋賀県等との協調下で多くの具体的な課題を明確化してきた。現在、2009年度成果である「草津市バイオスタウンを中心とする環境循環型都市整備による地域活性化と持続可能なまちづくり事業」は、1年を経過した今年度当初に、「草津市当局が検討に入る可能性が出きた」と伝達してきたので待機中である。2011年度では、この成果を受けて、隣接する湖南市と連携する広域化の形態での「環境循環型都市整備」に関する研究継続の報告をする。また、昨年度に継続して、2011年度における湖南市での研究テーマは、「国道バイパス整備に伴う沿道地区の大規模開発」や、「農・工・商連携した土地利用と都市開発」を進めるとともに、旧国道1号線再開発での、「福祉・医療と複合するアグリビジネス開発」に関する研究を行う。さらには、「地域交通基盤としてのLRTネットワークの社会実験の開発構想」と、「交通基盤とマッチした都市的居住地区・施設開発、商業・サービス施設開発構想・事業化」の検討を、市当局メンバーと協調して検討する内容を論述する。

**地域マネジメント  
研究小委員会  
(第2種継続)**

春名 攻 (立命館大学)  
山田 幸一郎 (CAP)

16:20~16:50

**海外土木事業のプロジェクトマネジメントについて**

日本のゼネコンが、近年、大規模海外土木工事において、工事進捗とともに損益が悪化するケースが多発している。この要因には、日本のゼネコンの海外でのビジネスモデルの問題があるのではないかと考えられる。具体的には、一般的には契約の問題が注目されているが、より本質的にはプロジェクトマネジメント (PM) 手法に問題があるのではないかと考えられる。

これまでの日本のゼネコンのPM手法とは、ODAタイド中小規模案件を中心として国内工事の延長線で行ってきたマネジメント手法であり、「有能な現場所長にほぼ全てを任せる手法」といえるであろう。

しかし国際的には、大規模インフラ整備プロジェクトにおいて、コスト・工期、調達、資金等のマネジメント要素を統一されたシステムとして扱うことにより、経験や勘だけに頼るのではなく、定量的かつ科学的な情報を元に管理部門と現場が一体となってマネジメントする手法が発達してきている。このようなマネジメントが求められているにもかかわらず、その対応ができていないのが、現状の日本のゼネコンの問題点といえるのではないだろうか。

これからの日本のゼネコンの海外土木事業をビジネスとして成り立たせるには、大規模化・複雑化する国際プロジェクトにチャレンジせざるを得ないと考えられる。そのためには、従来の手法に訣別し、新しいPM手法、すなわち、厳格なコスト・工期マネジメント、契約マネジメント (クレーム交渉・文書管理等) を含む定量的・科学的なPM手法を取り入れた対応が不可欠と考えられる。

ここでは、海外土木ビジネスモデルに着目し、現状の問題点を整理し、これから取り組むべきプロジェクトマネジメントの考え方を紹介する。

**新しいビジネスモデル研究小委員会  
(第3種継続)**

中山 等 (鹿島建設株式会社)

16:50~17:20

## 北海道における建設マネジメント研究会の概要と活動経過及び現在の取り組み

平成13年より北海道土木技術会建設マネジメント委員会メンバーを中心に活動をしてきた。北海道は国土の22%の広さであり建設業者も各地域に分散し地域独特の問題を抱えている。本研究では、地域の問題にアドバイスをするとともに、国の入札制度、ISO、CALIS、コンプライアンス等について産官学で取り組んできた。今回はこの背景を説明するとともに、小冊子にまとめた「あり方」委員会の内容を報告する。「あり方委員会」は地方建設業のあり方、継続すべきか、他業種に進出すべきか、また、廃業すべきかの問題を二年間に亘り検討しまとめた物である

### 北海道における戦略的建設マネジメント研究会 (第3種新規)

白尾 宣彦 (日本データサービス株式会社)

17:20~17:30

## 閉会の挨拶 : 研究問題検討小委員会 滑川達 小委員長



### ■問い合わせ

：社団法人 土木学会  
研究事業課 建設マネジメント委員会  
担当 竹原 優子

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内  
TEL: 03-3355-3559  
E-mail: takehara@jsce.or.jp

  
土木学会  
The Construction Management Committee  
建設マネジメント委員会